

ミリオンダラーホール付近の現地調査(2013年3月)* The field survey around the Million dollar hall of Ioto volcano (March,2013)

防災科学技術研究所**

National Research Institute for Earth Science and Disaster Prevention

2013年2月17から18日に発生したと推定される硫黄島南西部の旧噴火孔(通称ミリオンダラーホール)において、3月7日から8日にかけて、現地調査をおこなった。

第1図は、ミリオンダラーホール付近における現地での簡易な測量結果である。気象庁(2013)が海上自衛隊の撮影結果(1月23日)をもとに記した噴出孔A~Dのうち、BとDは明瞭な地形が残って無く、確認できなかった。噴出孔AとCの底には、側壁から崩れた岩石等が溜まっていた。3月6日に海上自衛隊の撮影で確認された陥没孔周辺には新たな泥や岩石が飛散している様子は見つからなかった。

第2図は、噴出孔(A)における噴出物の堆積状況である。2012年以降に噴出した泥の高さが約1.6m堆積していることがわかった。

第3図は、拳の数倍程度の大きさをもつ噴石を確認した場所を示している。ミリオンダラーホールを中心として北東~東~南東側に約80~90m、西側には210mまで飛散していることが確認できた。

第4図は、熱赤外線観測の結果である。3月6日に海上自衛隊の撮影で確認された陥没孔の底から側壁にかけて、高温領域が認められた。一方、噴出孔(A)や噴出孔(B)底や側壁では高温領域が認められなかった。なお、撮影には神奈川県温泉地学研究所所有の赤外熱映像観測装置 NEC Avio 社製 TH9100(測定レンジ; 0.0~250.0℃)を用いた。

参考文献

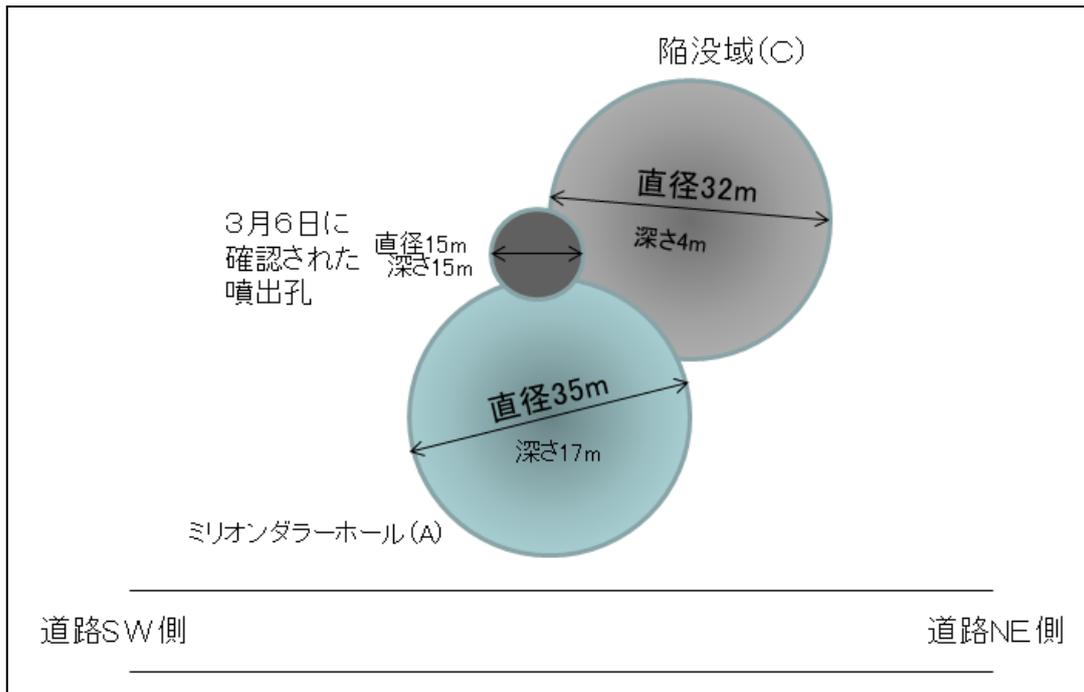
防災科学技術研究所(2012):2012年3月ミリオンダラーホールの地表面温度測定, 火山噴火予知連絡会資料, 37.

気象庁(2013):硫黄島, 第125回火山噴火予知連絡会資料, 107-118

* 2013年3月29日受付

** 棚田俊收

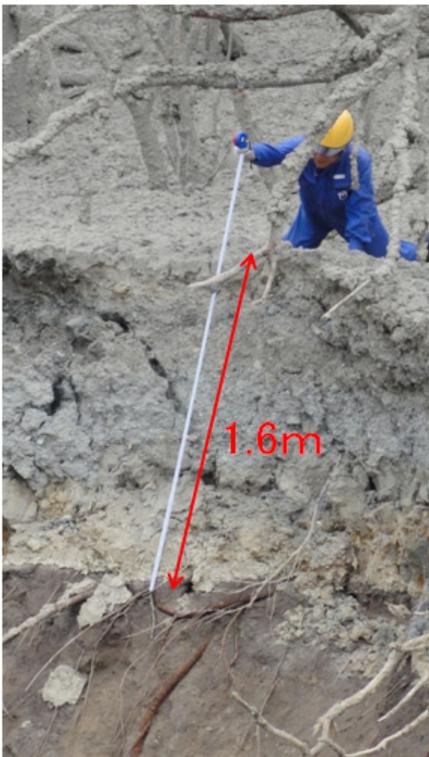
Toshikazu Tanada



第1

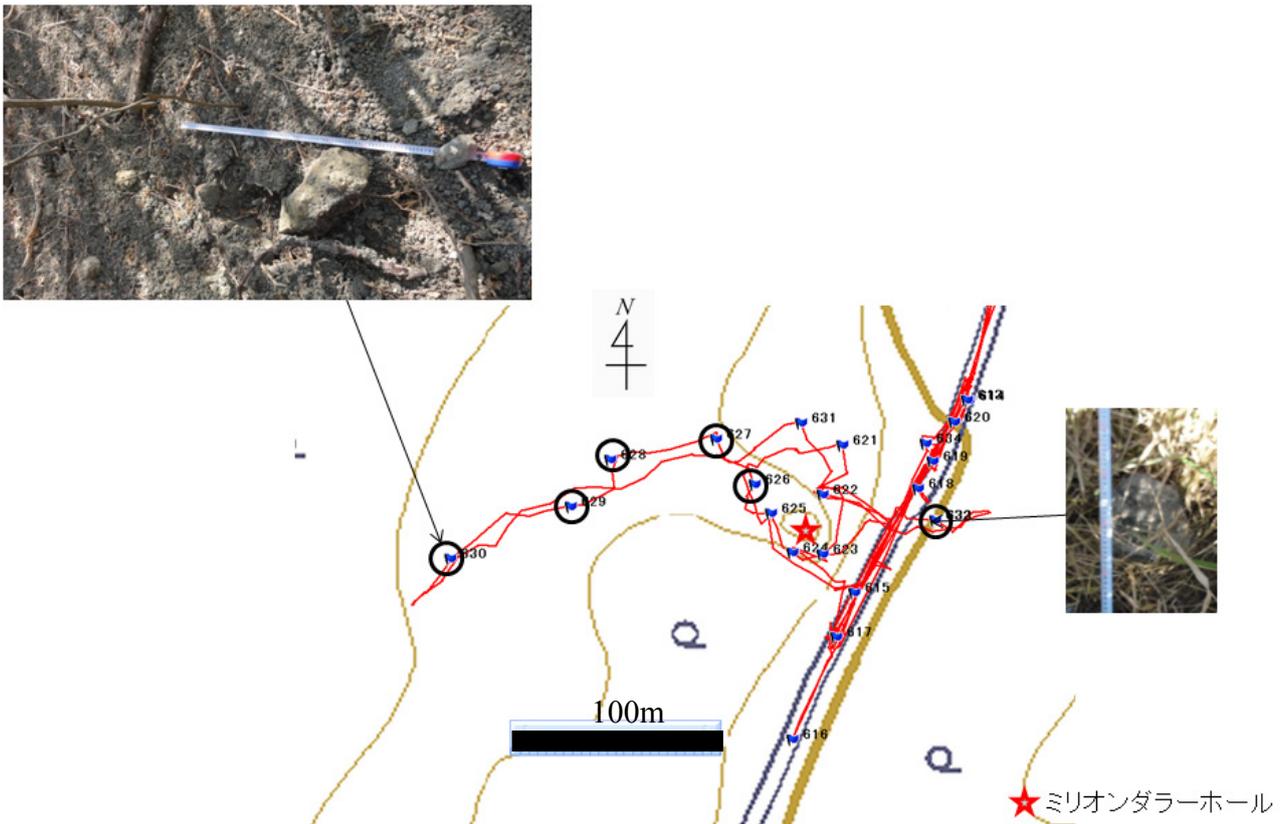
図 ミリオンダラーホール周辺での測量結果

Fig. 1 The survey result around Million dollar hole.



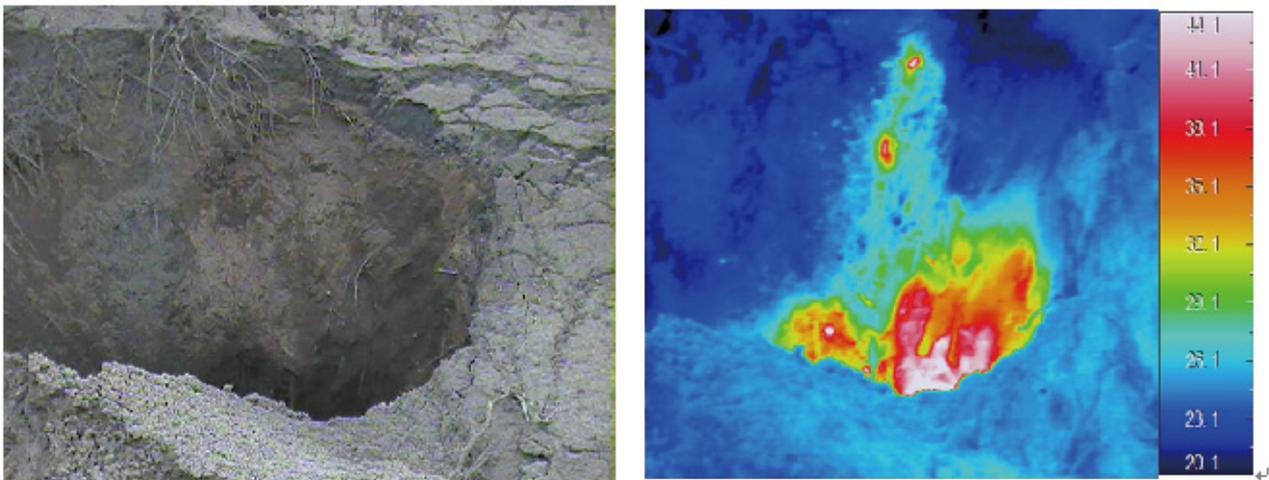
第2図 噴出孔 (A) における噴出物の堆積状況

Fig. 2 The deposition at eruption hole (A)



第3図 噴石確認地点 (○印)

Fig. 3 The survey point of cinders(circular mark).



第4図 2月19日に海上自衛隊の撮影で確認された陥没孔における可視画像と熱赤外線画像(2013年3月7日16時18分頃撮影)

Fig. 4 The picture(left) and thermal image(right) of the cave-in hole checked by photography of the Maritime Self Defense Force on February 19 around the Million dollar hall (March 7, 2013)